

石井晴一
著

初歩の テーマ

SANSHUSHA

目 次

I	ÊTRE	1
II	AVOIR	6
III	二つの自動詞	10
IV	他動詞 (1)	14
V	他動詞 (2)	18
VI	複合過去と単純未来	22
VII	代名動詞 (1)	26
VIII	代名動詞 (2)	29
IX	非人称の il	32
X	比較の表わし方	37
XI	関係代名詞 (qui, que)	41
XII	関係代名詞 (où, dont)	45
XIII	前置詞 + 関係代名詞	49
XIV	命令法	51
XV	大過去と前未来	55
XVI	不定詞	59
XVII	疑問副詞と疑問形容詞	64
XVIII	疑問代名詞	67
XIX	条件法	71
XX	間接話法	76
XXI	間接疑問	81
XXII	接続法 (1)	86
XXIII	接続法 (2)	91
XXIV	接続法 (3)	95

I ÊTRE

être は英語の be にあたる動詞で、使い方もほとんど英語と同じです。活用さえきちんと頭に入れてしまえば、英語のできる人には大した苦勞もなく使いこなせます。

文例 1 これはなんですか？—(これは 1 冊の)本です；
(これは)ピエルの本です。

Qu'est-ce que c'est?* — C'est un livre; c'est
le livre de Pierre.

*誰ですか？と聞く場合には Qui est-ce? となる。

être は be と同じように主語と主語の属詞 (attribut: 英語の complement) となる名詞を結びつけ、S(主語)+V(動詞)+A(属詞) という文を作りあげます。この文の構造自体はど

être の活用			
je	suis	nous	sommes
tu	es	vous	êtes
il(elle)	est	ils(elles)	sont

く簡単ですので、あらためて説明する必要はないでしょう。ここではむしろ ce の使い方と、冠詞の用法に注意してください。

文例 1 の ce は英語の this にあたりますが、Ce sont des livres. のように複数としても用いられるのがこの指示代名詞の特徴です*。

さて、上の文例では同じ livre という名詞に最初は不定冠詞、次には定冠詞がついています。その

不 定 冠 詞			
<i>m. s.</i> (男性単数)	un	<i>m. pl.</i> (男性複数)	des
<i>f. s.</i> (女性単数)	une	<i>f. pl.</i> (女性複数)	des

理由は第一の livre がなんの限定も受けていないのに、第二の livre は de Pierre という言葉によって他のものから

定 冠 詞			
<i>m. s.</i>	le (l')**	<i>m. pl.</i>	les
<i>f. s.</i>	la (l')**	<i>f. pl.</i>	les

区別されているからです。我々日本人には、冠詞の用法は最も難しい問題の一つですが、まず上のような基本的な使い方をよく頭に入れてください。

* ただし、たずねるものが複数の場合でも、Qu'est-ce que c'est ? が用いられる。
Qui est-ce ? も同様。

**le, la は母音または h muet(無音の h)ではじまる語の前ではともに l'となる。
例：l'arbre, l'histoire, l'autre monde (あの世, 来世)。

練習問題 1

- 1) これは辞書(dictionnaire *m.*)です；ジョルジュ(Georges)の辞書です。
- 2) これは時計(montre *f.*)です；ニコール(Nicole)の時計です。
- 3) これらは鉛筆(crayon *m.*)です；アンドレ(André)の鉛筆です。
- 4) これらはルブラン夫人(madame Leblanc)の子供(enfant *m.f.*)たちです。
- 5) あれはどなたですか？—— [あれは]ジョルジュのおじさん(uncle *m.*)です。
- 6) これはビエールのオートバイ(moto *f.*)です。

文例 2 彼女はブロンドですか？

- a) Est-elle blonde ?
- b) Est-ce qu'elle est blonde ?
- c) Elle est blonde ?

文例 2 も 1 と同じく S + V + A という構造ですが、違っているのは A が形容詞であるという点です。フランス語の形容詞は、それが修飾する名詞・代名詞の性・数にしたがって変化するという規則は頭では知っていても、

形容詞の変化			
<i>m. s.</i>	blond	<i>m. pl.</i>	blonds
<i>f. s.</i>	blonde	<i>f. pl.</i>	blondes

いざ書く段になると忘れてしまいがちですから気をつけましょう。

さて、文例は疑問文になっていますが、フランス語の疑問文の作り方はこのように三通りあります。ただし a) のような主語と動詞の倒置は je が主語の場合は Puis-je...? などを除いては稀ですし、また Sont-ce...? という形は用いられません。また c) の疑問符だけをつける方法はおもに会話で用いられます。なお、Marie est blonde. のように主語が名詞の場合は、倒置をする際、Est-Marie blonde? とはならず、Marie est-elle blonde? となることに気をつけましょう。

練習問題 2

- 1) 彼らは非常に(très)背が大きい(grand(e)).
- 2) ニコールは小柄(petit(e))ですか? — ええ, 小柄です.
- 3) ヴェロニック(Véronique)の車(voiture f.)は何色(de quelle couleur)ですか? — 灰色(gris(e))です.
- 4) ニコールのスカート(jupe f.)はベージュ色(beige*)です.
- 5) これらはジョルジュの本ですか? — ええ, ジョルジュの本です.
- 6) エレーヌ(Hélène)の辞書は非常に重い(lourd(e)).
- 7) あなたがた(女性に向かって)はご満足(content(e))ですか? — ええ, 非常に満足です.
- 8) ルブラン夫人の子供たちはお利口さん(sage*)ですか? — はい, とってもお利口さんです.

*beige, sageのように語尾にもともとeのついた形容詞は男女同形.

文例 3 ジョルジュはフランス人です; 彼は学生です.

Georges est français; il est étudiant.

フランス語の être の用法の特徴の一つは, français(e), japonais(e)のように国籍を示す言葉や, étudiant(e), professeur(先生), dactylo(タイピスト)のような身分や職業を示す語を人称代名詞や人名の属詞に用いる場合, これらが冠詞なしで使われることです**.

日本	Japon m.	～人	Japonais(e)*
フランス	France f.	～人	Français(e)
イタリア	Italie f.	～人	Italien(ne)
イギリス	Angleterre f.	～人	Anglais(e)
ドイツ	Allemagne f.	～人	Allemand(e)
スペイン	Espagne f.	～人	Espagnol(e)
スイス	Suisse f.	～人	Suisse
ベルギー	Belgique f.	～人	Belge
アメリカ	Etats-Unis m. pl.	～人	Américain(e)

*一般に japonais(e)と小文字にすれば「日本の」という形容詞になり, le japonais と男性形に定冠詞をつければ「日本語」になる. また, 「彼は日本人(フランス人)だ」などと言う場合には Il est japonais(français).のごとく小文字で書くのが近頃の傾向.

否定形は動詞を前後から ne...pas でかこみます. 否定疑問は倒置した主語と

動詞を *ne...pas* でかこむか、否定文の頭に *Est-ce que...* をつけられればできあがります。その場合、*ne* の *élision* を忘れないように注意してください。

<i>ne...plus</i> (もう…でない)	<i>Elle n'est plus jeune.</i> (彼女はもう若くはない)
<i>ne...jamais</i> (決して…ない)	<i>Elle n'est jamais contente.</i> (彼女は決して満足しない)
<i>ne...ni...ni</i> (…でも…でもない)	<i>Elle n'est ni riche ni pauvre.</i> (彼女は金持でも貧乏でもない)
<i>ne...que</i> (…にしかすぎない)	<i>Ce n'est qu'un petit garçon.</i> (それは一人の少年にすぎない)

**主語が *ce* の場合は、*C'est un Français. C'est un avocat.*(弁護士)のように冠詞が必要。

練習問題 3

- 1) 私は写真家(*photographe m. f.*)です。
- 2) ルブラン氏(*monsieur...*)は技師(*ingénieur m.*)です。
- 3) ニコールの姉さん(*sœur f.*)はタイピストです；彼女はとてもおしゃれ(*coquet(te)*)です。
- 4) あなたは彫刻家(*sculpteur m.*)ではないのですか？—— いいえ、違います。
- 5) あなたがた(女性に向かって)はアメリカ人ですか？—— いいえ(Non), アメリカ人ではありません；イギリス人です。
- 6) ビエールの父親(*père m.*)は薬剤師(*pharmacien(ne)*)ですか？—— いいえ, 薬剤師ではありません；医者(*médecin m.*)です。

文例 4 マリーはどこにいますか？—客間にいます。

Où est Marie ?—Elle est dans le salon.*

**où* (どこに), *quand* (いつ), *comment* (どのように)などの疑問副詞が用いられた疑問文では、主語が名詞の場合、文例のように単に主語と動詞を倒置する場合と、先に述べたように代名詞で受け直す場合とがある。第 XVII 課参照。

これまでにあげた文例では、*être* をなかだちとして主語に結びつく属詞が必要でしたが、文例 4 にはそれに相当するものが見あたりません。ここでは *être*

は「居る, 存在している」という意味で, 構造上ではS+Vで一応完結しています。とは言っても, 上の文から où や dans le salon を取り去ってしまった場合には文として成立しにくいことがおわかりでしょう。Je pense, donc je suis. (我おもう, 故に我あり) のような特殊な場合をのぞいては, この意味の être は場所を示す状況補語をとものうのが普通です。

おもな場所の前置詞[句]	
à	…に
dans	…の中に, …に
sur	…の上に
sous	…の下に
devant	…の前に
derrière	…の後ろに
en face de	…の正面に
près de	…のそばに

練習問題 4

- 彼女たちはどこにいますか? — サロン (salon *m.*) に (dans) います。
- 彼は現在 (actuellement) どこにいますか? — 3 ヶ月前から (depuis trois mois) ロンドン (Londres) に (à) います。
- 本 (複数) はどこにありますか? — テーブル (table *f.*) の上にあります。
- 市役所 (mairie *f.*, hôtel *m.* de ville) はどこにありますか? — 駅 (gare *f.*) の真向いに (juste en face de) あります。
- マリー (Marie) は窓 (fenêtre *f.*) のそばに座って (assis(e)) います。
- 私の兄の家 (maison *f.*) は小さな丘 (colline *f.*) の上にあります。

補充問題 I

- あれはどなたですか? — ポールの妹です; 彼女はタイピストです。
- あなたはなんて (Que) ご親切 (gentil(le)) なのでしょう! 本当に (vraiment) 恐縮して (confus(e)) しまいます。
- ビエールの兄さんは弁護士ではなかった? — ええ (Si*), そうですよ。
- ルブラン氏はご在宅 (être là) ですか? — いいえ, おりません。
- これはなんですか? — これが新しい (nouveau(elle)**) 和仏 (japonais-français) 辞典です。
- 病院 (hôpital(aux) *m.*) はどこにありますか? — メトロの駅 (station *f.* de métro) の脇に (à côté de) あります。

* 否定疑問に対しては, 肯定で答えるなら Si, 否定で答えるなら Non で受ける。

** 母音, または h muet で始まる語の前では男性単数形は nouvel となる。